

KEY TOPIC

# 『地域みっちゃく生活情報誌®』の拡大が急加速! 5,000万部への一里塚

日本全国のご家庭に地域ごとの情報誌を届けるため5,000万部の発行を目標に掲げる『地域みっちゃく生活情報誌®』。今期も順調に発行部数を伸ばしてきましたが、この秋、さらに勢いが加速。新たに2社のVC加盟契約を締結して総発行部数は1,300万部を突破、5,000万部の目標に対して進捗率25%超えを実現しました。

## 2社のVC加盟で 各地の占有率が上昇

第47期は期初から複数社とVC加盟契約を締結し、さらに中広グループ各社による全国各地での情報誌創刊を経て、総発行部数を着実に伸ばしてきた『地域みっちゃく生活情報誌®』。この度、新たに千葉県・茨城県で『ちいき新聞』を1,731,648部発行する株式会社地域新聞社、岩手県で『情報紙ゆうゆう』を120,000部発行する株式会社俵屋舎の2社とVC加盟契約を締結し、総発行部数は1,300万部を突破しました。これで今期目標である1,500万部に向けた進捗率は89%となります。同時に、最終目標である5,000万部発行に対しては25%超の進捗率となり、日本全国の各ご家庭に『地域みっちゃく生活情報誌®』をお届けするための一里塚を築くことができました。

両社のVC加盟により『地域みっちゃく生活情報誌®』のドミナント戦略も点から線、そして面へと着実に成長しています。

まず東北地方は岩手県、秋田県、山形県、宮城県、福島県と、青森県を除く5県での発行となり、総発行部数は1,149,870部。東北



千葉県各地域・茨城県一部地域で発行 / 1,731,648部 (毎週)



岩手県盛岡市で発行 / 120,000部 (月2回)

地方の総世帯数における『地域みっちゃく生活情報誌®』の占有率は30%を突破しました。また、関東地方では東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、茨城県、栃木県、群馬県の1都6県全てで発行となり、計63誌、総発行部数は4,309,402部。関東地方の総世帯数における占有率は20%を超えました。

## 5,000万部に向けて 神髓は質の向上

『地域みっちゃく生活情報誌®』は、最終目標である全国5,000万部発行に向けて着実に歩みを進めていますが、その神髓は情報誌の質の向上です。



9月10日に行われた株式会社俵屋舎との調印式

総発行部数が拡大すれば、情報誌から得られるデータ量が増え、解析・分析結果は先鋭化します。こうして得られた知見をグループ各社はもとよりVC各社にも共有し、データに裏付けられた読者満足度の高い誌面、高反響が期待できるフォーマット企画やフリー広告原稿を追求した情報誌を増やすことで、数の力は数倍、数十倍に昇華させることができます。これこそが読者とクライアントの役に立ち、地域とその集合体である日本を元気にすることにつながるのです。

まずは今期の1,500万部達成と、その先にある5,000万部到達を目指して。全国の同志と共に『地域みっちゃく生活情報誌®』の挑戦は続きます。

## 新しくVC加盟契約を締結した2社をご紹介します!



株式会社地域新聞社  
代表取締役社長  
細谷 津彦

### 日本全国のフリーマガジン 発行事業の活性化に貢献します

千葉県を中心に毎週170万部の『ちいき新聞』を発行している当社ですが、2024年2月時点での時価総額は上場企業の中で最下位。上場維持基準の適合に向けてシバワーストラテジーを推進する中で、9月には足元の純資産を3倍にする財務戦略を成功させることができました。今後の当社の成長戦略のうえで大きな柱となるのが、VC加盟による全国の媒体ネットワークの活用です。1,300万部となる配布インフラを武器にお客様の期待に応え、地域経済の活性化に貢献していきたいと考えております。



株式会社俵屋舎  
代表取締役社長  
相原 幸生

### N.Yタイムズ紙も認めた街 「盛岡」の魅力をもっと届けたい

岩手県盛岡市で12万部発行している『情報紙ゆうゆう』です。1998年の創刊から、盛岡市の情報・魅力を読者の方へお届けしています。情報過多となっている昨今ですが、我々紙媒体のやるべきことは変わっていません。世界に認められた盛岡市の魅力を常に伝えていくために、私たちが常にアップデートし、時代に沿った紙面づくりをしています。全国のフリーマガジン発行社の皆さまと切磋琢磨しながら盛り上げていきたいと思っていますので、よろしくお願いたします。

COLUMN

# おはようございます 朝起きについて

## 人生は時間 時間は命

還暦を迎えてから始めた早朝ウォーキング。前夜にどれだけ深酒しても5時には起床、水を一杯飲んで大きく息を吸い込み、国盗りの山・金華山の頂に聳える岐阜城に一礼して歩き始めます。雨であろうと雪であろうと、余程のことがない限り続けています。早朝なので多くはないのですが、行き交う人と挨拶します。「おはようございます」と声をかけると、「おはよう」と返ってきたり、うなずいたりとの反応があります。

挨拶は心を映すバロメーターです。自分も相手も声を交わせば、心地の良いものです。

この7月から、ラジオ体操を始めました。早朝ウォーキングで毎朝見かける人が、NHKのラジオ体操をやっている、ずっと気になっていました。一緒にやらせて欲しいと願って2カ月、ラジオ体操を続けています。この体操は実によく考えられていて、なかなかの運動量ですが、肩こりがほぐれ血行が良くなりました。ウォーキングとはまたひと味違った朝の景色が見られ、実に爽快です。

朝のラジオ体操は朝6時30分からの10分です。たった10分間だけ、自分の人生を体操のために費やしているのですが、私にとって有意義な時間です。

人生とは時間であり、時間とは命そのものなのです。自分の命を大切にすることは、「自分の時間を何に換えたか、自覚できているかどうか」ではないかと思っています。自分の時間を何に費やしたか分からない、なんとなく時間が過ぎていくとしたら、もったいない。自分の命を有効に使い切りたいと思うほど、朝の10分は大切に、かつ楽しく感じるので。

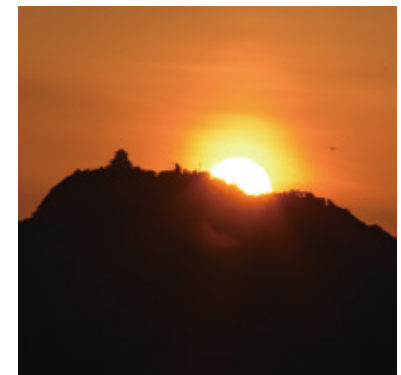
## 自分が決めたことを 自分が実行するだけ

日々の暮らしのひとコマ、ひとコマが自分の人生です。そのひとコマを取り出して、やり方を変えてみたりすると、何かに気づきます。やってみれば簡単なことだったり、もっと早くからやればよかったなどと、自分なりの変化が見えてきます。多くの人は自分を变えたい、成長させたいと願っていますが、様々な問題に出合ってしまう、なかなか思うようになりません。でもそれは、気づいたことを放っておくからです。こうしたほうが良いと分かっている、できない理由などなくても、やることをな

んとなく先延ばしにしてしまうのです。

これは、朝寝によく似ています。ほんの少し早く起きれば、自分や家族のためにできることがどれだけあるでしょうか。それでも起きられず、あと5分でも、1分でもいいからと寝床から離れない。「私は夜型なので朝は苦手。なかなか朝起きができず、どうすれば良いのか」とよく尋ねられます。秘訣などありません。「さあ明日から早く起きるぞ」と決めて、早く寝て早く起きればいいだけです。自分が決めたことを自分が実行するだけのことです。

私は、早起きを強制しているわけではありません。自分の人生とは「生まれてから死ぬまで」の時間ですが、その時間の使い方は個人の勝手であり、他人からとやかく言われる筋合いのものではありません。ただ、思いのまま存分に使って欲しい、と願っているだけなのです。



金華山、岐阜城の朝日

## 最も生産的な時間 朝活のすすめ

アップルの現CEOであるティム・クック氏は、毎朝4時半くらいから社員へのメールを送り始めるそうです。アメリカの日報経済新聞「ウォール・ストリート・ジャーナル」は、「最も生産的な時間」は午前4時だとして、「早起きをすることで注意散漫になる時間を避け、効率的な1日を過ごすことができる」と伝えています。

昔から日本では「早起きは三文の徳」という言葉がありますが、最近では朝の時間を有効活用した「朝活」というのが行われているそうです。

朝の時間を充実させれば、仕事が進むのは間違いありません。仕事は段取り7分です。朝の時間を日々上手く活用できる人が成果を上げ、人生そのものを豊かにしているこ

とも事実です。

理性と感情を司る大脳皮質は朝に活発になると言われています。「一晩寝てから、朝考えてみたら」、悩んでいることがすっきりしたり、気持ちさがガラッと変わっていたりします。脳科学者の茂木健一郎氏は、「朝は脳のゴールデンタイム」と言いました。ドーパミンやアドレナリンが多く分泌されるため、やる気や集中力が高まり脳が最も効率よく働きます。

## 笑顔で繋がる 朝の挨拶

8月の下旬、迷走台風が列島を襲い、全国各地で異常な雨を降らせました。9月に入っても猛暑日や真夏日が続く、お彼岸を迎えてようやく秋めいてきました。8月8日に起きた日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震により、「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」が発表されました。

気象庁は緊急地震速報を出して、九州・四国・関西・東海地方沖を震源とする南海トラフ地震が、1週間以内に発生する可能性があることと国民に注意喚起。15日には、この特別な注意の呼びかけを終了し現在に至っていますが、海岸地域を中心とした西日本は経済的に大打撃を受けました。しかし、南海トラフ地震による経済損失を発生後20年間の累計で1,240兆円と土木学会は試算しています。

日本の国土面積は全世界の0.29%です。全世界で見ると、マグニチュード6以上の地震の18.5%が日本で起こっていて、活火山の7.1%が日本にあります。また、災害で受けた被害金額は17.5%となっています。極東のこの小さな国は、まさに自然災害大国なのです。9月27日の自民党総選挙で新しい総裁が決まり、10月初旬に解散、下旬に衆議院総選挙になる可能性が大ですが、為政者にこの国の未来を託すことになります。

私は、これはこうあるべきだとか、こうでなければならぬといったことは何も無いと思っています。ただ、朝「おはようございます」と、元気に大きな声で挨拶できるかどうか。それだけで、広告の仕事は成り立つと思っています。「おはようございます」と挨拶すれば、自分も自分の周りの人も笑顔で繋がりが、心が温まっていくと信じています。

たかが朝起き、されど朝起き。さあ、今朝も「おはようございます」。



# 13,304,442部

※情報は2024年9月発行号に基づき掲載しています ※VC発行エリアを含む ※昔番到達率は配布部数を9月24日現在の各県が公表している昔番数で割り算し一部リレイヤー発行に伴い10月に流通していないものを含む ※発行日は月により変動する可能性があります。詳細はお問い合わせください

北海道	
道内発行 媒体数	道内 総発行部数
<b>6誌</b>	<b>928,540部</b>
SORA vol.115 滝川市・砂川市・赤平市・歌志内市・新十津川町・赤井江町 41,500部 20日発行	

宮城県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>5誌</b>	<b>577,920部</b>
先月より100部増	
皇平区・清田区 南区版	札幌市皇平区・清田区・南区・中央区(東部)・北広島市大曲
vol.223	229,675部 第4火曜日発行
北区・東区版	札幌市北区・東区
vol.194	236,370部 第4火曜日発行
白石区・厚別区版	札幌市白石区・厚別区中央区(前成川より東)・江別市大森地区
vol.220	173,615部 第4火曜日発行
西区・手稲区版	札幌市西区・手稲区中央区(西部)小樽市(一部)
vol.230	186,380部 第4火曜日発行
AO vol.4	千歳市・恵庭市
	61,000部 第4木曜日発行

秋田県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>1誌</b>	<b>140,200部</b>
QKuRaSu vol.183 秋田市	
	140,200部 1日発行

宮城県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>5誌</b>	<b>577,920部</b>
先月より100部増	
白石区・厚別区版	札幌市白石区・厚別区中央区(前成川より東)・江別市大森地区
vol.220	173,615部 第4火曜日発行
西区・手稲区版	札幌市西区・手稲区中央区(西部)小樽市(一部)
vol.230	186,380部 第4火曜日発行
AO vol.4	千歳市・恵庭市
	61,000部 第4木曜日発行

山形県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>225,450部</b>
【東おきたま版】米沢市・南陽市高島町・川西町	
【西おきたま版】長井市・白鷹町飯盛町・小国町	
vol.103	60,000部 20日発行
ARIFT vol.1785	143,450部 第4または第5金曜日発行

福島県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>86,300部</b>
月刊 すかおと vol.102	須賀川市・楡石町・天栄市玉川村・石川町・道川町矢吹町・白旗町・平田村
月刊 こみおと vol.24	白河市・西郷村泉崎村・小島村
	33,000部 25日発行

茨城県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>6誌</b>	<b>380,270部</b>
先月より42,270部増	
ひた志 vol.179	日立市
	62,000部 25日発行
にしも vol.136	筑西市・下妻市結城市
	44,000部 25日発行
こがも vol.112	古河市・埴野町木原町
	52,000部 25日発行
Couta vol.236	つくば市・土浦市牛久市
	130,000部 月末発行

千葉県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>1誌</b>	<b>52,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

群馬県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>5誌</b>	<b>403,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

埼玉県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>9誌</b>	<b>1,065,865部</b>
久喜市	
vol.115	52,000部 第4月曜日発行
羽生市・加須市行田市	
vol.115	56,400部 第4月曜日発行
熊谷市	
vol.106	62,000部 1日発行
深谷市	
vol.49	44,000部 20日発行
所沢市・入間市・狭山市・嵐山市・川越市・ふじみ野市三芳町・富士見市・日高市	
vol.649	174,985部 第1または第2金曜日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>186,200部</b>
練馬区	
vol.1783	51,470部 第2または第3金曜日発行
足立区・葛飾区	
vol.1782	134,730部 第1または第2金曜日発行

千葉県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>39誌</b>	<b>1,694,547部</b>
佐倉市	
vol.2230~2231	43,215部 毎週金曜日発行
八千代市	
vol.2230~2231	61,760部 毎週金曜日発行
八千代台版	
vol.2230~2231	43,210部 毎週金曜日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>186,200部</b>
練馬区	
vol.1783	51,470部 第2または第3金曜日発行
足立区・葛飾区	
vol.1782	134,730部 第1または第2金曜日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>186,200部</b>
練馬区	
vol.1783	51,470部 第2または第3金曜日発行
足立区・葛飾区	
vol.1782	134,730部 第1または第2金曜日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>2誌</b>	<b>186,200部</b>
練馬区	
vol.1783	51,470部 第2または第3金曜日発行
足立区・葛飾区	
vol.1782	134,730部 第1または第2金曜日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

東京都	
都内発行 媒体数	都内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

神奈川県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>1誌</b>	<b>527,520部</b>
横浜市新子区・港北区・神奈川区・中区・南区・港南区・鶴見区・中原区・青葉区・緑区・都筑区・旭区・保土ヶ谷区・川崎市幸区・川崎区・東久野区・品川区	
vol.1784	527,520部 第3または第4金曜日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

新潟県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>3誌</b>	<b>181,000部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	
vol.128	120,000部 25日発行

静岡県	
県内発行 媒体数	県内 総発行部数
<b>8誌</b>	<b>510,370部</b>
【北西版】前橋市・吉岡町	
【南東版】前橋市	



## コミュニケーションを活性化し、組織力を強化

愛知県で約100年続く企業より、定期発行の社内報をお任せいただきました。会社幹部の人柄や考えを共有し、より身近に感じてもらうことで、コミュニケーションを活性化し、一人ひとりが持つ力を最大限に発揮できるような組織づくりを目指すという意図のもと、企画・制作を行っています。

毎号、幹部社員一人にスポットを当て、生い立ちから入社して現在に至るまでの経験談、今後の目標や未来の展望など、人生観や思いを引き出すものになっています。また、趣味や家族との休日の過ごし方など、普段見られない姿を紹介する企画も設けています。社員の皆さんからは、「雑誌のインタビュー記事のようで驚いた」「知らない一面を知れてよかった」という反響があり、今後も読み手が楽しめる誌面構成を模索していきます。

当社では、目的や意図に適した誌面企画・デザインの提案から、撮影・取材、発行までワンストップで対応可能です。社内で作作物をお考えの企業の皆さんは、ぜひお気軽に営業担当までお問合せください。(名古屋SP2課・鳥本)



## 情報誌がつなぐ、スポーツと地域の絆

群馬県太田市を本拠地とした、B.LEAGUE所属のプロバスケットボールチーム「群馬クレインサンダーズ」。10月のシーズン開幕を前に、「太田フリモ」9月号では、読者から熱い応援メッセージを募集するプレゼント企画を実施しました。チームを支える地元企業の特集記事も掲載し、地域一体となった応援ムードを醸成しました。

発行後、メッセージが続々寄せられ、プロスポーツチームの影響力に驚かされました。同企画は今年で3回目を迎えましたが、年々反響が大きくなっています。10月号以降は、「群馬クレインサンダーズ通信」というコーナーを設け、シーズン中の選手の情報や、ホーム戦の日程なども発信していく予定です。

地元スポーツチームと企業、そして市民が一体となってまちが盛り上がりしていくのを感じ、情報誌を通じて地域を元気にするという、私たちの使命を果たせたことを誇りに思います。今後も地元スポーツチームを応援し、地域活性化に貢献してまいります。

(太田フリモ編集室・金澤)



## ワンストップ対応でキャンペーンを成功へ導く

群馬県プロボイザル「特殊詐欺被害防止の啓発及び電話対策機器普及業務」を3年連続で受託しました。キャンペーン告知(群馬全誌の情報誌・チラシ・ポスター・ウェブサイト・イベント運営など)、装置の配送手配、県内全域へのチラシ仕分けなど、幅広い業務を担当しています。

一昨年は桃太郎、昨年は一寸法師と、昔ばなしをベーステーマにキャンペーンを展開してきました。今年は金太郎を起用し、特殊詐欺被害に遭いやすい高齢の親、そして祖父母がいる子・孫への訴求に重点を置きました。今回のタイトル「ここからサギは通さない」は、「詐欺と先」の言葉を掛け、対策機器の特徴をキャラクターで表現しています。

今年から追加となったイベント運営では群馬県、県警音楽隊やエフエム群馬と連携して準備を進め、イオンモール高崎に集まった来場者に大変好評でした。社会問題の解決や地域貢献の一助になるような企画立案・プロモーションなどはぜひ弊社へお任せください。(高崎フリモ編集室・島田)



## 生産性が劇的に向上! リピート必至の導入効果

国内外に複数の拠点を展開し、解体業を営む神谷商会より、MAXHUBを追加発注いただきました。MAXHUBとは会議空間に必要なマイク、スピーカー、カメラ、電子ホワイトボードをディスプレイ1台に備えている、インタラクティブボードとカテゴリズされるデジタル機器です。WindowsOSを搭載しているため、操作方法はPCと同じ。デジタル機器導入でつまづきがちな「使い方がよく分からない」という失敗がなく、導入した瞬間からスムーズに活用いただくことが可能です。室内空間をデジタルに変えるオールインワンのミーティングボードは、企業のDXを加速させること間違いなし。オンラインミーティングの準備は電源を入れるだけなので、準備時間を大幅に削減できます。

今回、神谷商会には使い勝手の良さに大変ご満足いただき、1台目納品後すぐに2台目の受注となりました。東京・岐阜・名古屋・福岡などに、体験ルームをご用意しています。社員の業務外負担を軽減するためにも、ぜひ導入をご検討ください。

(名古屋SP1課・尾関)



## 中広グループ児童虐待防止運動が文部科学省・こども家庭庁の後援活動に

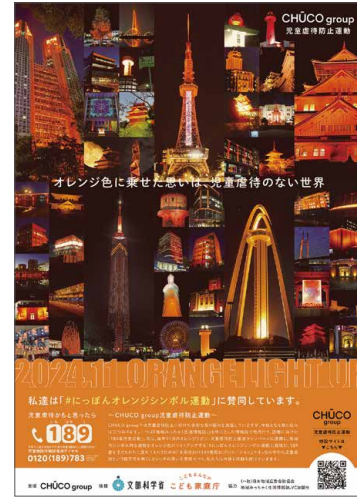
中広グループは2018年より、児童虐待の早期発見・対応を促す児童相談所虐待対応ダイヤル「189番」の認知度向上に取り組んでいます。国内随一のフリーメディアを発行し、地域経済の活性化を支援する企業として、重要な使命に据えています。

活動の柱は3つ、まず、「地域みっちゃく生活情報誌」を通じた189番の啓発。次に、こども家庭庁によるオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンと連携した「#にっぽんオレンジシンボル運動」。そして、子ども自身が行動を起こせるように促す「小学生向け189番周知プロモーション」です。

この度、これらの運動が文部科学省、こども家庭庁からの後援を得ることとなりました。これまで協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

11月は「#にっぽんオレンジシンボル運動」の活動月間です。街の象徴的な建物をライトアップし、児童虐待のない社会への願いをオレンジの光に託します。運動に賛同いただける企業様、施設様は、ぜひ当社スタッフまでご連絡ください。

(広報・マーケティング担当 岡本)



▲「#にっぽんオレンジシンボル運動」に賛同いただいた皆様に、こちらのポスターを配布します

詳しい活動内容は特設サイトをご覧ください



クリック

## 滋賀県女性のわくわく応援事業に協力

びわこと編集室は、再就職を目指す女性を応援する滋賀県主催の「女性のわくわく応援事業 お仕事体験DAY」に参加しました。編集室の仕事内容の紹介や、求人広告の制作体験のほか、子育て中の社員との座談会を実施。参加者からの率直な質問に、社員も自身の経験を交えて語るなど、和やかなひと時となりました。編集室にとっても、普段の業務や職場環境を客観的に振り返る貴重な機会となりました。

(びわこと編集室・田中)



▲参加者のアイデアをラフ案にしました

## 広告費は読者から! 画期的ビジネスモデル

6月号の特別企画として、チケット1枚で18カ所の温泉施設をお得に楽しめる「みやざき温チケ」を発売しました。これは、広告費が捻出しにくい温泉施設と「温泉特集をしてほしい」という読者の声、双方に応える画期的な企画です。

読者にはチケット購入で割引特典を提供し、その収益を掲載料に充てることで、温泉施設の掲載料を無料とする仕組みを採用。販売期間3カ月、利用期間4カ月で、約100万円のチケット収入を達成しました。読者からの問い合わせや温泉施設からの継続要望も多く、大きな反響を得ています。

情報誌を介して、読者と温泉施設、双方にメリットのある関係を築き、地域活性化にも貢献することができました。



▲「みやざき温チケ」掲載誌面

## 株式会社関西ぱど



▲株式会社関西ぱどスタッフ

株式会社関西ぱどが発行する「ぱど」は、1989年に大阪府枚方市で創刊。地域密着型のポスティング型情報誌として、「ぱど京阪北版」は主に枚方市・寝屋川市・交野市を、「ぱど京阪南版」は主に守口市と門真市を発行エリアに、グルメやイベント、美容・健康など、暮らしに役立つ情報をお届けしてきました。

そしてこの度、2024年8月で創刊35周年という節目を迎えるにあたり、大幅なりニューアルを実施。読みやすさを追求した紙質の変更、ハッピーメディア®に合わせた右開きへの変更に加え、長年のご愛顧に感謝を込めた35周年読者プレゼント企画を実施。読者の皆さんに、一段とお楽しみいただける情報誌と生まれ変わりました。

これからも私たちは、「生活者視点を持って、顧客の課題に向き合い、価値ある解決策で、地域から日本を元気に!」という関西ぱどの理念のもと、地元の魅力を発信し、地域とのつながりをより一層深めながら、読者の皆さんのニーズに応え続けてまいります。今後とも「ぱど京阪北版・京阪南版」をどうぞよろしくお願いいたします。

(株式会社関西ぱど・渡邊)

## 編集後記

中広グループが推進する児童虐待防止運動を、文部科学省とこども家庭庁が後援していただくことになりました。省庁の後援がつくのは中広史上初のこと。「日本から児童虐待を無くしたい」。この思いに共感いただけた結果だと受け止めています。私たちの活動に対する大きな励みになると同時に、責任の重さを改めて実感しています。ご協力いただきました皆様には本当に感謝申し上げます。

運動の一つである「#にっぽんオレンジシンボル運動」は、来月1,000カ所でのライトアップを目指しています。私たちは189番の認知向上が、助けを求める子どもたちの暗く沈んだ心の灯となると信じています。1カ所でも多く灯すことで、より多くの方へこのメッセージを届け、街全体で子どもたちを見守るそんな象徴となるように、今後も全力で取り組んでまいります。

(広報・マーケティング担当 岡本)

## 「ママこっこと®」

園児から家庭に直接届く子育て情報満載のフリーマガジン

【配布先】 県内全域の幼稚園・保育園・こども園  
【設置先】 産婦人科・小児科・児童館・図書館・ショッピングモール等  
【仕様】 冊子A5版 オールカラー

## 「Start!」

進路選びを応援する高校生のための就職応援メディア

【配布先】 高校  
【仕様】 冊子A4 オールカラー  
【発行エリア】 山形県、群馬県、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、鳥取県



## 「講演会インフォ」

ゲスト講師、タレント選びからイベント企画立案、当日の運営までサポートするネットワークサービス

【対応エリア】 全国  
【内容】 講演会・研修会・ウェブセミナー・コンサートの企画運営  
【登録講師数】 7,000名  
【年間実施件数】 400件以上

## クーポンアプリ「フリモ」

ダウンロードはこちら (iPhone/Android)

フリーマガジンに掲載しているクーポンがスマホの中に! 切り取らなくてもスワイプで簡単に使える!  
対応OS: iPhone: iOS14.0以上 Android: 7.0以上  
※ダウンロード数 453,759件 (2024年9月22日現在)







# 『地域みっちゃく生活情報誌®』の効果を各社にインタビュー ブランド加盟による化学反応

現在、当社とグループ3社、VC加盟27社で合計1,300万部以上を発行する『地域みっちゃく生活情報誌®』。同一ブランド展開はスケールメリットだけでなく、データ解析・分析で得た知見や成功事例の共有による質の向上にも寄与しています。それぞれの情報誌にどんな変化があったのか、近年同志になった各社の皆さんに聞きました。

——2022年に『地域みっちゃく生活情報誌®』となった中広メディアソリューションズの『ARIFT』。取締役・メディア事業部長である忠敏行さんから見て、どんな変化があったのでしょうか。

忠／当社の発行する情報誌は『ARIFT』という媒体名で統一されているので、従来の表紙は全版統一でした。そこで、『地域みっちゃく生活情報誌®』となって最初に行ったのは、版によってビジュアルを変え、地元感を読者に伝えることです。また同時に、媒体コンセプトも変更しました。表紙と同様、編集コンテンツも各県ごとに取材し、もっともって地元情報を届けるのだというこだわりを強くしました。現在では「地元でみつける、より良い生活」が『ARIFT』のコンセプトです。

——続いては、今年5月にVC加盟したぶらざの『月刊ぶらざ』編集長、宮地直子さんにお伺いします。まず、VCに加盟していかがでしょうか。

宮地／月に一度生配信で全国の事例を具体的に紹介していただけるのは、企画や営業先の選定も含め、とても役立っています。中広は大きな組織にも関わらず人間味のある温かさがありますし、何よりも、同じ志を持つ仲間が全国にいるということは心強いです。広告で守らなくてはならない法律などは、自社で把握できていなかった部分を指摘いただくことで勉強になりますし、クライアントに根拠をもって説明できるのでありがたいです。

——『地域みっちゃく生活情報誌®』となって、大きな変化があったのはどんな部分でしょうか。

宮地／いろいろとあるのですが、例えばVC加盟してから教えていただいた、数字管理方法などは大きな変化のひとつで、「私たちは今の倍の売り上げがあった10年前でさえ、行き当たりばったりで営業をしていたのだな」と感じるほどです。また長年、当社のウィークポイントと考えていたハウジング広告の獲得においては、「むしろ伸びしろである」とマインドチェンジしていただきました。ハウジング攻略のための虎の巻といった資料も共有いただいたことで、記事も含めて全18ページの特集を組むことができました。スタッフも「住宅は難しい」という意識があったのですが自信を持つことができました。これが一番大きな変化です。



県ごと（版ごと）に刷り分けをしている『ARIFT』の表紙。創刊の際にはもっと細かエリアごとに地元と分かる写真を使用し、地域読者が「自事」と捉えられるように演出しているそうです

——より深く地域に密着するための変化ということですね。営業企画や販売方法はいかがでしょうか。

忠／中広グループのナレッジはとことん活用しています。毎週配信されているグループ内でうまくいっている企画や、CDMRをはじめとする読者データの解析結果はスピード感をもって営業や制作に取り入れています。さらに、「全国1,300万部以上」「ポスティングメディア」といったスケールメリットも、他社にはまねできない『地域みっちゃく生活情報誌®』ならではの強みとしてお客様に案内しています。



「月刊ぶらざ」9月号では、苦手意識のあったハウジング特集を巻頭から18ページで展開。ウィークポイントを見事に伸びしろに変えることができました

——最後は、2021年に『地域みっちゃく生活情報誌®』となった関西ほどのぼど京阪北

版マネージャーを務める井上徹さんに伺います。最近、情報誌に大きな変化がありましたね。

井上／創刊35周年を記念した9月号で紙の変更を行い、広告で重要な写真の見栄えを大きく向上させました。また多くの『地域みっちゃく生活情報誌®』と同様、右開きに変更しました。これによって中広グループ内で共有されている広告フォーマットの流用や巻頭記事の縦書き表記ができるようになり、グループ姉妹誌の成功事例を展開しやすくなりました。実際、成功事例を参考に自誌企画に転換することで、新規受注が増えています。



35周年を記念して表紙のデザインを一新した「ぼど 京阪北版／京阪南版」。紙質や開きを変えたのは品質を向上し、「地域みっちゃく生活情報誌®」のシナジーを最大限に発揮するためです

——情報誌のまとめ方についても意識が変わったそうですね。

井上／フリーペーパーという認識からフリーマガジンに変換したのが大きいです。雑誌ですのでコンテンツを充実させてパッケージングを魅力的にしなければなりませんし、それを読者にしっかり伝える必要があるので目次を設置しました。また、巻頭特集ではグルメを定期的に扱い、読者満足度を向上させています。

雑誌としての質を向上させることで、読者とクライアントに還元する『地域みっちゃく生活情報誌®』。雑誌づくりへのこだわりが読者の満足度を高め、レスポンスの向上をもたらします。当社のデータ分析によってみえた成功事例の共有を通じて、加盟媒体の広告効果の向上に寄与してまいります。

**会社概要**

商号 株式会社 中広 (CHUCO CO., LTD.)  
東証・名証 証券コード【2139】

創業 1978年  
資本金 4億430万円  
従業員 450名 グループ全体 686名 (2024年9月末現在)

**事業内容**

フリーマガジン事業 イベント・セミナー事業  
セールスプロモーション事業 通信販売事業  
クロスメディア事業 VC事業(ボランタリー・チェーン)

**理念** 広告業を通して「地域社会への貢献」 (地方創生に!)

**社是** 人が命・人が宝・人が財産 (社員が輝く組織に!)  
機会損失の排除 (モノ・トキ・ココロの無駄ゼロ)

**社訓** 飲水不忘掘井人 (感謝の心で!)

**グループ会社**

株式会社中広メディアソリューションズ https://chuco-ms.co.jp  
株式会社ケイ・クリエイト http://www.k-create.co.jp  
株式会社ケイビーエス http://www.post-kps.co.jp  
株式会社 関西ぼど https://www.kansaipado.co.jp

**第47期 基本方針**

スローガン Data Driven テーマ 全員経営

**オフィシャル運営サイト**

- 中広企業サイト ●中広採用サイト ●中広VCサイト ●フリモ(WEB)
- 講演会インフォ ●わくわく生活(楽天)他
- 販促blog ●HAPPY MEDIA GUIDE(情報誌見稿サイト)
- ハッピーメディアが児童虐待防止運動 ●日本地域メディアネットワーク(JLMN)

**公式アカウント**

- Facebook ●YouTube
- Instagram ●(旧)Twitter

リンク集はこちら

**加盟団体**

- JLAA 一般社団法人日本地域広告会社協会

2017年取得 2016年取得

次世代育成支援対策推進法に基づく「くろみん」認定企業です

女性活躍推進法に基づく「えるぼし」認定企業です

★住宅が活躍しています!

## 営業拠点

<p><b>■ 本社</b> 岐阜本社 岐阜市東興町27 名古屋本社 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F</p> <p><b>■ FM・SP事業部</b> 《北海道》 SORA編集部 滝川市東町6-1-11 TEL.0125-74-6169 旭川市東光6条6-4-7 TEL.0166-85-6158</p> <p>AO編集部 苫小牧市旭町3-7-6 TEL.0144-56-5704</p> <p>《宮城県》 とみず!編集部 仙台市泉区泉中央1-33-7 2F TEL.022-341-4809</p> <p>なうてい!編集部 名取市手倉田字諏訪532-1 1F西 TEL.022-797-8541</p> <p>さきっぺ!編集部 大崎市古川旭5-3-2 2F TEL.0229-25-8792</p> <p>《群馬県》 高崎フリモ 前橋フリモ編集部 高崎市新保町139-1 2F [高崎フリモ]TEL.027-353-8714 [前橋フリモ]TEL.027-353-8711</p> <p>伊勢崎フリモ 太田フリモ編集部 伊勢崎市茂呂町2-3522-6 TEL.0270-61-6117</p> <p>桐生みどりフリモ編集部 桐生市本町6-27-1 3F TEL.0277-47-7635</p> <p>《東京都》 東京SP部 港区新橋2-16-1 9F TEL.03-6910-2940</p>	<p>《福井県》 きらめきくらぶ編集部 敦賀市野沖40-277-2 1F TEL.0770-24-2622</p> <p>《岐阜県》 GIFUTO編集部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2512</p> <p>SARUBOBO編集部 高山市下岡本町2967-2 TEL.0577-34-5579</p> <p>Wao!Club・mintoup はしまる編集部 大垣市加賀野4-1-13 [Wao!]TEL.0584-75-1960 [mintoup]TEL.0584-77-4088 [はしまる]TEL.0584-71-6226</p> <p>GUJOプラス編集部 郡上市八幡町小野91-1 TEL.0575-67-0655</p> <p>たんとくらぶ編集部 各務原市那加栄町14-1 TEL.058-380-6066</p> <p>きらくらぶ編集部 関市王通1-6-3 TEL.0575-24-4334</p> <p>かにさんくらぶ編集部 可児市今渡字町1595-190 TEL.0574-25-7009</p> <p>おりべくらぶ編集部 多治見市太平町4-38 TEL.0572-21-2626</p> <p>らせるくらぶ編集部 土岐市東西川町1-4 3F TEL.0572-55-2033</p> <p>maika club編集部 中津川市中津川字上金1231-1 TEL.0573-62-2522</p> <p>官公庁営業部 岐阜市東興町27 4F TEL:058-247-2511</p> <p>岐阜SP部 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2511</p> <p>《静岡県》 クッキーズ・とねじん編集部 久喜市久喜中央2-8-23 3F TEL.0480-38-6881</p> <p>《東京都》 東京SP部 港区新橋2-16-1 9F TEL.03-6910-2940</p>	<p>EC部 大垣市加賀野4-1-13 TEL:0584-74-0745</p> <p>《愛知県》 NAGOYA FURIMO 各編集部 [中村・中川・港区版] 名古屋市中川区柳森町107 2F TEL.052-355-6111</p> <p>[中央・西区・北区・名東・天白・南区版] 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-433-1602</p> <p>緑区フリモ編集部 名古屋市緑区六田1-150 2F TEL.052-829-0270</p> <p>守山フリモ アサヒトセト・ひまわりくらぶ編集部 尾張旭市東本郷ヶ原町3-53 2F [守山フリモ]TEL.0561-42-5799 [アサヒトセト]TEL.0561-42-6981 [ひまわりくらぶ]TEL.0561-42-6971</p> <p>ゆいまるくらぶ・さんごくらぶ かなうくらぶ編集部 愛知郡東郷町北山台4-1-6 [ゆいまるくらぶ]TEL.0561-42-4850 [さんごくらぶ]TEL.0561-42-4885 [かなうくらぶ]TEL.0561-42-4855</p> <p>Cocon club・ちるるくらぶ 安城フリモ・北知多フリモ フリモから編集部 知多郡東浦町大字緒川字下沙田17-1 TEL.0562-85-1077</p> <p>リッパ倶楽部編集部 大山市松本町2-29 TEL.0568-39-6111</p> <p>岡崎フリモ編集部 岡崎市明大寺町字寺東9-1 5F TEL.0564-83-7121</p> <p>西尾フリモ・オンジクラブ編集部 額田郡幸田町大字芦谷字毛倉62 1F TEL.0564-83-7763</p> <p>名古屋SP部 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-571-2139</p> <p>《三重県》 ぼろんくらぶ編集部 桑名市殿町10 TEL.0594-25-9988</p>	<p>Belle club編集部 鈴鹿市神戸1-10-10 TEL.059-373-4400</p> <p>よっかいちai編集部 四日市市鶴の森1-5-16 8F TEL.059-325-7562</p> <p>つっぴ〜す編集部 津市栄町1-840 5F TEL.059-213-7666</p> <p>リーガクラブ編集部 名張市鴻之台3番町36-1 TEL.0595-41-0156</p> <p>ふぁみんくらぶ編集部 松阪市東町596 3号棟 1-A TEL.0598-31-3623</p> <p>イセクラブ編集部 伊勢市岩洲3-6-5 2F TEL.0596-63-8282</p> <p>からっと倶楽部編集部 尾鷲市坂西町2-34 2F TEL.0597-37-4100</p> <p>さみっとくらぶ編集部 志摩市阿児町鶴方2850-126 D号室 TEL.0599-65-7201</p> <p>三重SP部 四日市市鶴の森1-5-16 8F TEL.059-325-7562</p> <p>《滋賀県》 ぼてじゃこ倶楽部編集部 長浜市宮司町1161-7 2F TEL.0749-68-2577</p> <p>こんぎくらぶ編集部 彦根市長曾根町9-22 1F TEL.0749-26-0555</p> <p>オウテッククラブ編集部 近江八幡市桜宮町289 3F TEL.0748-36-1148</p> <p>湖南フリモ・甲賀フリモ編集部 栗東市手原5-6-19 TEL.077-596-3335</p> <p>ひわごと編集部 関西SP部 大津市浜大津2-1-35 6F TEL.077-521-3911</p>	<p>《奈良県》 かしろくらぶ編集部 橿原市葛本町260-1 1F TEL.0744-48-0606</p> <p>《和歌山県》 まいななが・まいとん編集部 岩出市高瀬84-2 2F TEL.0736-67-7630</p> <p>《鳥取県》 つばさ編集部 鳥取市吉方温泉3-860 2F TEL.0857-30-6446</p> <p>くらくらぶ編集部 倉吉市山根540-1 4F TEL.0858-27-0510</p> <p>こはくらぶ編集部 米子市西福原2-9-49 2F TEL.0859-21-5400</p> <p>《広島県》 はつカラ編集部 廿日市市新宮2-1-10 1F TEL.0829-30-6673</p> <p>《福岡県》 マイタウン西区版編集部 福岡市早良区西新5-1-30 3F TEL.092-833-5250</p> <p>むなふ・おるね編集部 宗像市土穴1-3-34 1F [むなふ]TEL.0940-72-6101 [おるね]TEL.0940-72-6102</p> <p>福岡SP部 [北九州SP課] 北九州市小倉北区堺町1-3-15 4F TEL.093-383-7581</p> <p>[福岡SP課] 福岡市早良区西新5-1-30 3F TEL.092-400-5955</p> <p>《佐賀県》 月刊TOSS編集部 鳥栖市東町1-1064-15 1F TEL.0942-50-9619</p> <p>《VC事業部》 岐阜市東興町27 4F TEL.058-247-2511</p>	<p><b>■ グループ戦略統括事業部</b> 名古屋市中村区名駅1-1-1 24F TEL.052-562-2139</p> <p><b>■ 管理本部</b> 経理部・総務人事部 岐阜市東興町27 2F TEL.058-240-4005 [購買流通課]TEL.058-246-0285</p> <p><b>■ グループ会社</b> 株式会社関西ぼど本社 大阪市西区初本町1-10-24 5F TEL.06-6479-3113</p> <p>北大阪支社 寝屋川市大利町10-10 1F TEL.072-827-0817</p> <p>東大阪営業部 東大阪市下小阪2-14-16 3F TEL.06-6729-8101</p> <p>株式会社中広メディアソリューションズ 横浜支局 横浜市中央区真砂町3-38 5F TEL.045-225-9267</p> <p>埼玉支局 さいたま市南区南浦和2-39-16 3F TEL.048-767-8238</p> <p>仙台支局 仙台市若林区新寺1-2-26 5F TEL.022-792-8101</p> <p>山形オフィス 山形市蔵訪町1-1-1 2F TEL.023-616-7390</p> <p>株式会社ケイ・クリエイト本社 一宮市木曾川町里小牧東寺125 TEL.0586-86-0608</p> <p>東尾張支社 岩倉市新柳町1-50 2F TEL.0587-96-8331</p> <p>株式会社ケイビーエス 岩倉市新柳町1-50 2F TEL.0587-96-8336</p>
---	--	--	--	---	--

※従業員数はグループ会社含む ●…地域みっちゃく生活情報誌®